

<金標準、投機抑制の動きで戻り売り基調に注意・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領が次期 FRB 議長にタカ派のウォーシュ元 FRB 理事を指名した事を機にドル安の恩恵を受けていた金、銀の要因が後退し、また CME グループ、中国黄金取引所、上海先物取引所、大阪取引所が金、銀の値動きにおける投機抑制の動きを強め、証拠金引き上げを発表している。特に銀においては UBS が中国の投資ブーム抑制で銀先物ファンドを含む 5 つの商品ファンドの取引を停止し、また中国の複数の銀行が貴金属の変動リスクに警鐘を鳴らし一部の銀行は証拠金要件を強化し、金属購入のための借り入れの可能額を制限する処置を見せている。また CME グループは 6 日取引終了後に金と銀の証拠金引き上げを発表している。しかし歴史的な下落にも拘らずドイツ銀行は金価格が 6000 ドルを予想し、JP モルガンも 6300 ドルを予想し、UBS は 6200 ドルなど 2026 年の強気の見方には変化は見られない。ただ急落後のボラティリティが高い値動きでもあり、乱高下には注意が必要であるが金標準先物で 24000 円を下回るの難しいと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下落し、シグナルも下落している。RCI は短期が下げとまり、長期は切り下げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジの下限で下げ渋っており、25000 円以下は買われる値動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,198,000 円(2026 年 2 月 9 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 118,800 円(2026 年 2 月 9 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>